


<b>カンボジア王国</b>			首都	プノンペン
 <p>上下を囲む青は王権を、赤は国家を、白は仏教徒を表している。中央の紋章は世界遺産のアンコールワットが描かれている。</p> <p>独立：1953/11/9          国連加盟：1955/12/14          政体：立憲君主制</p>		国 の 概 要	国土	面積 18万 1,000 km <sup>2</sup> (日本の約半分) 国土の大半がメコン川が形成する広大な沖積平野からなる。北東のタイ国境にダンレック山地、北東のベトナム国境に高原地帯がある。南西部はシャム湾に面し、西部には東南アジア最大の淡水湖トンレサップ湖がある。
			人口	1,410 万人
			言語	カンボジア語 (クメール語) (公用語)
			通貨	リエル
			気候	熱帯モンスーン気候で11月～4月は北東モンスーンによる乾季、5月～10月は南西モンスーンによる雨季である。
			民族	クメール人 94%、中国系 3%、ベトナム系 3%
			宗教	仏教 95%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校(6年)、中学校(3年)、高校(3年)、大学(4年)の教育制度となっている。</li> <li>・ 中学校に進学することはエリートコースを進むということであり、中学校に進学するための試験がある。</li> <li>・ 中学3年生と高校3年生の時に卒業試験があり、高校の卒業試験は大学入試資格試験を兼ねている。その試験も2年目が不合格となると試験資格がなくなる。</li> </ul>		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小・中学校の9年が義務教育だが、就学率は小学校で83.8%、中学校で16.6%と低い。</li> <li>・ 中学校の就学率が低いのは貴重な労働力として農作業等に就いていることが多いからといわれている。</li> <li>・ 都市と地方と遠隔地域、女子と男子といった中で格差が激しい。就学しても中退が多く、その原因とされる学校設備の改善や質の高い教員の養成といった課題への対策が求められている。</li> <li>・ 人口増加率が高いこと、さまざまな理由から落第者が多いことなどから教室の絶対数が不足している。</li> <li>・ 義務教育は原則無料であるが、小学校の授業料を徴収している学校が少なくない。</li> </ul>		

	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は10月上旬より翌年の7月下旬である。</li> <li>・2学期制を採っている。1学期は10月下旬より2月中旬、2学期は2月下旬より7月下旬となっている。</li> <li>・多くの小・中・高校で教室や教師が不足しており、授業は午前と午後の2部制である。</li> <li>・統一カリキュラムは用意されていないが、学習内容は国語、書き方、作文、算数、歴史、理科等が中心であり美術、音楽、体育という科目はない。</li> <li>・中学校からは外国語教育が行われ、英語又は仏語を履修する。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校は15～18歳、技術高校・職業訓練校15～20歳、</li> <li>・工学系・法科大学18～23歳(5年間)、医学・薬学・芸術大学18～24歳(6年間)である。</li> <li>・高等教育への就学率は0.7～1.0%と推測されている。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育は義務教育ではないが、託児所は1～5歳、幼稚園は3～5歳が対象である。</li> </ul>
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は9月に始まり、6月に終わるため、7～8月の2カ月間が夏休みとなる。しかし、9月にも日本のお盆のような休みがあるため、多くの学校は10月から始業となる。</li> </ul>
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村部では児童生徒が貴重な労働力となっており、出席日数不足で落第するものが多い。</li> <li>・また、中学、高校では年2回の試験があり、及第点に達しない者は進級できない。</li> <li>・中学3年生(第9学年)と高校3年生には、卒業試験がある。高校卒業試験は大学入試資格試験も兼ねており、2年目に不合格となると試験資格がなくなってしまう。</li> </ul>
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高学校の必修科目は数学、クメール語(国語)、歴史、英語、化学などである。選択科目は体育、芸術、農業があるが、器材や教師の不足で、限られた人数しか受講できない。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食はない。</li> </ul>
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生はボールペンとノートを学校に持っていき、先生が黒板に書くことをノートに取るというような形式の授業を受けている。</li> </ul>
	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装は男子は白シャツに青か紺のズボン、女子は白いブラウスに青か紺のサンポットと呼ばれる巻きスカートをはいて</li> </ul>

		いる。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・PTAは組織されているが、活発ではない。
	子どもの一日	・多くの学校が半日なので、空いた時間はプライベート・スクールで英語やコンピュータを勉強したり、家の手伝いやアルバイトをしたりしている。
	その他	・地方出身の高校生の中には、お寺に下宿して学校に通い、放課後は料理や洗濯、平日の夜7～10時まではアルバイトをしていて、ひと月80ドルほどのアルバイト代は実家の家計を助けるために送金している生徒もいる。
生活習慣等	その他	・じゃんけんは「パウ」といい、日本と同じように、ハンマー（ニョーニュー）、はさみ（コントライ）、紙（クロダッ）で勝負する。掛け声は「ムオイ、ピー、パイ」と言い、1・2・3! という意味です。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・教育を受けるって当たり前？カンボジアの学校を訪問して・・・・・・・・三崎 友衣奈
- ・カンボジアの教育事情は、今・・・・・・・・・・・・・・・・八木沢 克昌